

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	保健・体育 II	
科目基礎情報						
科目番号	0027		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科 (電気・電子コース)		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Activesports					
担当教員	本間 浩二					
到達目標						
1 ルールやマナー・モラルに留意し、望ましい行動ができる。 2 できる・できないに関わらず、ポジティブにチャレンジできる。 3 自分本位な行動をとらず、相手を思いやる行動がとれる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
レディネス	時間、服装、整列、挨拶といった規律を守り、体調を整え授業に向かうことができる。	規律維持や体調管理が不十分なこともあるが、ある程度できる。	規律、体調管理に対する意識が低い。			
主体性・自己管理 (意欲/態度)	ルール・マナー意識が高く、自身の長所を發揮して、集団に貢献できる。	ルールやマナー・モラルを守り、自身の持つ能力を發揮できる。	ルールやマナー・モラルを守らず、能力發揮の意識が低い。			
コミュニケーション(協力/協調)	目的達成のためにベターな提案を選び、合意形成のための支援ができる。	集団の意見を聞き、自分の意見を伝えることができる。	集団の意見を聞かず、自己主張のみである。			
チームワーク (協力/協調)	他者と協調・協働を意識して、目的意識を持って行動ができる。	集団において他者と協調・協働して行動ができる。	集団において他者と協調・協働して行動できない。			
責任感 (協力・協調)	集団の目標達成のために、自らを律して前向きな取り組みができる。	集団の動きに合わせ、マイナス行為を戒めて行動できる。	集団の一員としての意識が持てず、マイナス行為が見られる。			
安全・環境管理	用具や施設を正しく大切に使用し、周囲にも安全配慮を促せる。	用具や施設を正しく使用できる。	用具や施設管理運用をするうえで自身の安全配慮ができない。			
競技別スキル	競技特性に応じたスキルができる。	競技スキルに応じたスキル發揮がある程度できる。	競技特性に応じたスキル發揮ができない。			
学科の到達目標項目との関係						
(B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。						
教育方法等						
概要	各種運動の実践を通して、運動技能を高めると同時に、運動の楽しさや喜びを感得する。また、自己の体調を整え、体力の向上を図りながら、協力、責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。					
授業の進め方・方法	毎時間の準備運動 (体操&トレーニング、ランニング、ストレッチ) を入念に実施し、けがのないように配慮する。適時種目内容に応じた施設・設備、用具を活用し、毎時間の目標に沿って授業を進めていく。					
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の運動着とする。(クラスTシャツは可) 事情によって別の衣類を着用する場合は担当教員に異装許可をとる。 ・正当な理由のない遅刻はしないように注意する。 					
事前・事後学習、オフィスアワー						
オフィスアワー (OFFICE HOUR) 15:00~17:00を原則とするが、都合がつけばいつでも対応する。ケガ相談、テーピング、健康に関わる相談等、可能な限り学生の意向に沿って対応する。						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンス ・選択種目ver 1 - 1 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球 	・各種目のルールを守り、安全な環境設営ができる。		
	2週	<ul style="list-style-type: none"> ・選択種目ver 1 - 2 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球 	・仲間と協力して行動できる。			
	3週	<ul style="list-style-type: none"> ・選択種目ver 1 - 3 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球 	・実戦に向けた基本的技術習得のための練習を実践できる。			
	4週	<ul style="list-style-type: none"> ・選択種目ver 1 - 4 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球 	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。			

後期	2ndQ	5週	・選択種目ver 1 - 5 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。	
		6週	・選択種目ver 1 - 6 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球	・大会本番に向けてクラスメイトへの支援ができる。	
		7週	・選択種目ver 1 - 7 (校内体育大会 - 練習4種目から選択) 1) サッカー/ソフトボール 2) バドミントン/バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 陸上/卓球	・大会本番に向けてクラスメイトへの支援ができる。	
	8週	・ソフトボール1 (雨天時: 館内種目2種)	・キャッチボール、打撃における基本動作ができる。		
	9週	・ソフトボール2 (雨天時: 館内種目2種)	・競技の危険性を考慮した練習参加、ゲーム運営ができる。		
	10週	・ソフトボール3 (雨天時: 館内種目2種)	・チームメイトと連携を図ることができる。		
	11週	・ソフトボール4 (雨天時: 館内種目2種)	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。		
	12週	・ソフトボール5 (雨天時: 館内種目2種)	・仲間と協力して、安全な環境設営ができる。		
	13週	・タグラグビー1	・独自のパス技法、相手をかわすステップ動作ができる。		
	14週	・タグラグビー2	・競技ルールを理解したゲーム運営ができる。		
	15週	・タグラグビー3	・チームメイトとチーム戦術や連携を図ることができる。		
	16週	・タグラグビー4	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。		
	後期	3rdQ	1週	・サッカー1 (雨天時: 館内種目2種)	・パス、トラップ、シュートの基本動作ができる。
			2週	・サッカー2 (雨天時: 館内種目2種)	・チームメイトとチーム戦術や連携を図ることができる。
			3週	・サッカー3 (雨天時: 館内種目2種)	・自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。
			4週	・サッカー4 (雨天時: 館内種目2種)	・勝敗に関わらずに相手や味方を称えられる姿勢を発揮できる。
5週			・サッカー5 (雨天時: 館内種目2種)	・ゲーム運営(審判, リーグ戦)を率先して行うことができる。	
6週			・バスケットボール1	・パス、ドリブル、シュートの基本的技術ができる。	
7週			・バスケットボール2	・ポストプレー、フェイントなどの技術に積極的に取り組める。	
8週			・バスケットボール3	・チーム内で戦術や役割を考えて、試合に挑める。	
4thQ		9週	・バスケットボール4	・試合: フルコート(Aコート、Bコート2箇所)	
		10週	・バスケットボール5	・ゲーム運営(審判, リーグ戦)を率先して行うことができる。	
		11週	・バスケットボール6	・ゲーム運営(審判, リーグ戦)を率先して行うことができる。	
		12週	・卓球 & ソフトバレー1 (交代制)	・基本技能を活かし、楽しく意欲的に競技することができる。	
		13週	・卓球 & ソフトバレー2 (交代制)	・競技の意義と特性を理解する。	
		14週	・卓球 & ソフトバレー3 (交代制)	・前向きに基礎スキル練習を実行できる。	
		15週	・卓球 & ソフトバレー4 (交代制)	・ニュースポーツの意義を理解して、楽しめる。	
		16週	・卓球 & ソフトバレー5 (交代制)	・ゲーム運営(審判, リーグ戦)を率先して行うことができる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
		チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3		

